

Y17b 若手天文教育普及ワーキンググループ(わか天)の活動 I: 若手のアウトリーチに対する考え方と、わか天の活動報告

松坂怜(鹿児島大学), 三浦飛未来(明星大学・川崎市青少年科学館) & わか天チームメンバー

天文学や他の基礎研究における教育普及活動(アウトリーチ)は、科学の普及と興味喚起、社会への還元、科学的な思考の促進に欠かせない活動である。また、若手がアウトリーチ活動を実施することで、新しい視点やアイデアの構築、活気が生まれ、天文・宇宙のアウトリーチ分野における更なる発展が期待される。一方で、2021年度の第51回天文・天体物理若手夏の学校で行われたアンケート調査(総回答数118)によると、「天文・天体物理に関する科学コミュニケーション活動」に興味を持っている若手は80%以上だが、実際に活動に携わった経験がある若手の割合は30%以下というのが現状である。その理由として、「アウトリーチ活動に参加するきっかけがない」「仲間が見つけれない」「活動をどう探せばいいのかわからない」という意見が多くあった。このような背景から、一般社団法人天文教育普及研究会の若手天文教育普及ワーキンググループ(以下、わか天)では、若手同士が研鑽しスキル向上が期待できる環境を作りを目指した活動を行っている。具体的には、「天文教育普及活動における若手のスキル向上」、「若手同士のコミュニティの構築」、「ベテランとのコネクション強化」という3つの目標を掲げている。わか天では、これらの目標を達成するために、「企画交流プロジェクト」と「研修会運営プロジェクト」を立ち上げ、オンラインイベントを実施してきた。企画交流プロジェクトでは、「宙への扉」という若手同士のコミュニティ形成や交流を目的としたイベントや、「天文〇〇」という若手の活動紹介を実施している。研修会運営プロジェクトでは、外部の講師を招き、社会教育や学校教育、社会調査などをテーマにした教育普及活動のスキルアップを目的とした研修会を実施している。本講演では、これらの活動についてまとめて報告する。